

## 目次

1. ご挨拶
2. バーチャル ECG のご報告
3. 絵本 『ゆうこさんのルーペ』
4. VVI 委員長の紹介
5. CWAJ 奨学金のためのチャリティーコンサートについて
6. 編集後記

CWAJ = College Women's Association of Japan

ECG=English Conversation Gathering (英会話の集い)

HoA = Hands-on Art

JBL = Japan Braille Library (日本点字図書館)

JVDCB = Japan Vocational Development Center for the Blind and Low Vision  
(日本視覚障害者職能開発センター)

SVI=Scholarship for the Visually Impaired (視覚障害学生奨学金)

VI = Visually Impaired (視覚障害者)

VVI = Volunteers for the Visually Impaired (視覚障害者との交流の会)

## 1 ご挨拶

皆さんこんにちは。いかがお過ごしでしょうか？ここ最近季節は春そのもの。のんびり日向ぼっこなどしていると気持ちのよい日が多くて、私はとても嬉しいです。春と言えば、先日筍掘りを初体験しました。これが思った以上になかなかの重労働。小さな鍬や移植ゴテを使って掘り進めるのですが、大きな石があったり、縦横に張っている木の根っこに阻まれたり・・・時にはのこぎりでそういう根っこを切りながら掘り進める、そろそろゆすたらうまく抜けるかなと思っ  
て力を入れるとバキッと途中で折れてしまう。翌日は腕や脇腹が筋肉痛になりました。そうして苦労して掘り出した大きな筍も、皮の部分がなくて食べられるのは中心部分のほんの少しだけ。食料を確保するというのはたいへんなことだなあと感じつつも、とても楽しい経験でした。春の風物詩の筍、たけのこご飯や天ぷらにして美味しくいただきました。

さて前置きがたいへん長くなってしまいましたが、今回は 4 つの記事をお届けいたします。VI フレンズへのインタビューや、VI フレンズからの寄稿、チャリティーコンサートについてなど盛り沢山です。どうぞお楽しみ下さい。尚こちら

のニュースレターは、下記の CWAJ ホームページでもお読みいただけます。

<https://cwaj.org/jp/education/volunteers-for-visually-impaired/>

## 2. バーチャル ECG のご報告

私達が ECG をバーチャルで開催するようになってはや約 1 年。ご参加下さっている皆さん、ありがとうございます。先日開催した第 4 回目のバーチャル ECG について、ECG 担当の洋子 Moskowitz（ようこモスコウィッツ）のレポートでお届けいたします。また、バーチャル ECG に取り組んで約 1 年を記念して、対面・バーチャル両方の ECG に複数回参加して下さっている、VI フレンドの方に感想を寄せていただきました。

~~~~~

パンデミックの終息がなかなか見えない中、3 月 27 日には、4 回目のバーチャル ECG を「春」をテーマに開催しました。19 名の VI フレンドや海外在住のボランティアを含む多数のボランティアが参加しました。ゲストスピーカーには、ワシントン在住のジャーナリストである Diana Parsell（ダイアナ・パーセル）さんと NHK の語学番組に出演するなど、多方面で活躍している日本在住のイラン人女性、Nahid Yoshinari（ナヒド・ヨシナリ）さんをお招きしました。

Dianaさんは、ワシントン DC に咲く日本の桜のために奔走した Eliza Scidmore（エリザ・シドモア）について話してくださいました。Nahidさんは、春分の日がイランの新年に当たることから、新年の風習などについて、最後には歌も交えて、説明してくださいました。

ゲストスピーカーの講演後は、技術的に不備があったものの、25 分間のブレイクアウトルームを 2 回設定したので、英会話をたっぷり楽しんでいただけたと思います。前もって講演内容を日本語と英語でお送りしましたので、皆様の理解に役立ったのではないのでしょうか。今後の状況次第では、対面での ECG も計画したいと思います。

~~~~~

### ECG オンラインイベントに参加しての感想

ルーテル学院大学藤岡郁弥（ふじおかふみや）

2020 年 3 月ぐらいから徐々に私たちの生活は変化し、今ではオンラインが推奨されている時代に直面している。新型コロナの影響から 1 年が経過した今、まるで映画の中の世界にいるようだ。しかし、この中で少しずつあることを感じるようになった。それは「コミュニケーションがいかに大切か」ということ。新型コロナの流行前は自由に、そして方法を選ぶことなく会話できたのが、今

ではマスクをする、3密を避ける、大声での会話は禁止、もつという「外出や人との会合は控えよう」という国からの呼びかけで対面でのコミュニケーションが制限されている。こんな今だからこそ感じられるようになったことだ。

「誰かと楽しく会話したい」そう思う日々の中での ECG イベントのお誘い。メールを見た時、本当にうれしかった。また、英語に触れる機会が高校卒業と同時に極端に減ってしまったこともあり、緊張もした。だが、オンライン上ではあるが、近況報告を兼ねた楽しい会話もできてとてもよい経験になった。またイベントの中でブレイクアウトルームを用いての会話があることはとても魅力的だ。今後もぜひ ECG オンラインイベントを開催してほしい。せっかくの機会なのだから、ブレイクアウトルームでのディスカッションをもっと増やしてほしい。というのもかなりの人数の人が参加しているため、2回のブレイクアウトセッションではなかなか全員と話すことができず、限られた人としか話すことができないからだ。ゲストスピーカーによるプレゼンテーションも含めたイベントもよいが、気軽に参加でき、ゆったりと英会話できるようなイベントがあってもよいと思う。

~~~~~

エディターより：

ここ1年で様々なイベントがオンラインで開催されるようになりましたよね。対面でのイベントに比べればどうしてもものたりなく感じるところがあるかも知れませんが、オンラインの良さもたくさんあると思います。例えば遠方からでも参加できる。スキマ時間を縫って参加できるなど。今回のバーチャル ECG には、モデレーターとして地球の裏側から参加した CWAJ メンバーもいました。社会がコロナを克服した後も、このようなオンラインの良さは生かしていけるとよいのではと個人的に思っています。まだオンラインイベントは体験したことがないという方、ぜひ1度私達のバーチャル ECG に参加してみませんか？初めての Zoom 体験でも大丈夫、接続の練習会も希望に応じて開催しています。皆さんの参加をお待ちしています(次回開催については、決まり次第皆さんにメールでご連絡いたします)。

### 3. 絵本 『ゆうこさんのルーペ』

『ゆうこさんのルーペ』という絵本をご存知ですか？これは、VI フレンズの一人である芳賀優子（はがゆうこ）さんが、ご自身の体験をもとに、プロジェクトメンバーと一緒に作られた、障害について考えるきっかけがたくさん詰まった絵本です。芳賀さんに、制作の経緯や、テーマに関する思いなどを伺いました。

~~~~~

芳賀さんは、長年「公益財団法人共用品推進機構」の活動に参加し、障害のある人もない人も使いやすいアイテムの開発にかかわっておられます。そのメンバー間で、「障害者差別禁止法ができるなど制度は整ってきているけれど、実際の理解はあまり進んでいないのではないか。昔は何もなかった分、あれこれ試行錯誤して取り組む人がいたけれど、今は制度がある分「そのマニュアルあるからいいよね」、「指針通りにやっているから OK」と、制度頼みで思考停止になっている人が多いのでは、考えるという機会が減っているのでは。」という話になったそうです。そして、いろいろな人に、大人にも子供にも、障害のある人にもない人にもそれぞれの立場で、障害について考えるきっかけとなるものを作りたいという思いから本作品が誕生したとのこと。

よりいろいろな人が一緒に考えられるようにということで、論理ではなく感覚に訴えることのできる絵本という媒体を選ばれたそうです。

お話は、ある男の子がゆうこさんの持っているルーペに興味を持つところから始まります。そしてその子はゆうこさんに話しかけます。

「無関心が差別や偏見を生むひとつの大きな要因。知らないことをきちんと知った上で考えることが大事。私のことを見ないでおこうという人は多いけれど、見ないふりをしないどころか、ルーペに興味を持ってちゃんと聞いてくれたことがとても嬉しかったので、そのことをテーマに絵本にしました」と芳賀さん。男の子の質問から始まって、いろいろな立場の人の経験・発見・視点が取り上げられています。

「障害者にあれこれ聞いてはいけない、それが思いやりとされていた時代もあったかもしれないけれど、考え方は時と共に変わって行くもの、変えて行く必要があるもの。障害のない人だけではなく、障害当事者にも、改めて障害というテーマについて考えるきっかけとしてもらえたら」ともおっしゃっていました。この絵本、活字を読むことが難しい方は、購入された上で出版社に連絡をすると、テキストデータの提供を受けられます。安原理恵（やすはらりえ）も取り寄せたテキストデータで絵本を読みました。絵本は、お話の部分と制作に関わった数名の方のメッセージからなっています。お話はもちろん、それらのメッセージにも多くの考えるきっかけが詰まっていると感じました。そして障害当事者のひとりである私は、この絵本を読んで改めて「きちんと伝えて行くことの大切さ」を自分に言い聞かせたのでした。例えば職場などで、こちらのニーズをなかなか理解してもらえず「ああ、もういやだ」と立ち止まってしまうこともあります。 「少しずつでもいいから、たまには立ち止まってもいいから、きちんと伝え続けて行くことが大切なんだよね」と。また、「絵本って各ページに文章こんなに少ししか書いていないのか」ということを実感し、絵本がどういうものなのかを改めて知るよい機会にもなりました。私は子供の頃から全盲で、絵本を読んでもら

ってはいましたが、子供のころはお話だけを追っているのです、ページにどれくらい文章があるかとか、絵の持つメッセージ力なんて難しいこと考えてなかったのですから。

プロジェクトチームも芳賀さんも、「絵本なのに、文字情報だけ提供するというのはどうなんだろう」と迷っておられたそうです。そんな時、視覚障害のある友人から「100パーセントじゃなくていい、テキストデータだけでもあれば、想像できるし、友人など見える人と一緒に読むこともできます。今できる60点を実現していただくほうが大事です。」と言われて、テキストの提供を出版社に依頼されたとのこと。出版社には、テキストデータを取り寄せて絵本を読んだ視覚障害者からお礼のメッセージが複数届き、社内でも驚きが広がったとのこと。芳賀さんは、同出版社から別の書籍の出版にも関わられたそうですが、この絵本でのテキストデータの提供経験と視覚障害者からの反応を受けて、そちらの本でもテキストデータの提供を出版社に実現していただけたそうです。芳賀さんが「UD (ユニバーサルデザイン) は作る人と使う人が一緒に作って行くものだよ」とおっしゃっていたことがとても印象に残りました。芳賀さんは、この絵本、英語圏でも発行できたらと思っておられるとのこと。ぜひ実現してほしいです！

#### 【絵本情報】

書名 ゆうこさんのルーペ  
文・絵 多屋光孫 (たやみつひろ)  
原案 はがゆうこ  
監修 ふじいかつのみ  
出版社 合同出版  
2020年12月25日第1刷発行

#### 4. VVI 委員長の紹介

現在、VVI 委員長を努めているメンバーの自己紹介をお届けいたします。  
Vicky (ヴィッキー) は昨年9月に、茂子 (しげこ) は今年1月に VVI 委員長に就任いたしました。Vicky は、母国語である英語で自己紹介をしています。参考までに私安原理恵が作成した日本語訳も最後に記載いたしました。

~~~~~

皆様、こんにちは。今年 VVI 委員長をさせていただいております、長岡茂子 (ながおかしげこ) です。  
私は、CWAJ に 2005 年に入会いたしました。幼い頃から外国に興味を持つ私には、

外国の方と一緒に Volunteer が出来るということが大変嬉しく、また新鮮に思えました。

VVI の活動に参加したのは、視覚障害者のニーズに応えるという趣旨に賛同したからです。入会后、実際に JVDCB での英会話クラス、ECG、筑波 Mock Interview Program (高等部の生徒さんを対象とした英検受験のための模擬面接)、JBL での英会話クラス、HoA などに参加した時には、VVI の仲間達の熱意を実感することが出来ました。

VVI 入会直後に、ECG のブラインド・サッカーに参加したことがありました。初めて見る、そして体験するブラインド・サッカーでした。VI フレンズのボールに対する方向感覚の鋭さに驚き、また一人で生活している方もいらっしゃることも知り、感銘を覚えました。この時のことは今でも度々思い出します。

また、SVI の選考委員会に参加して、応募者が自分の想いを研究・勉学に発展させ、それが素晴らしい結果に繋がっていることに感動いたしました。

これからも VVI の一員として、VI フレンズと活動を続けて行きたいと思っています。コロナの心配が無くなり、皆様に 1 日でも早くお目にかかれますことを心から願っております。

長岡茂子

~~~~~

Hello and thank you for reading the VVI Newsletter!

I'm Vicky Muehleisen, one of the co-chairs of the VVI committee at CWAJ. Please let me introduce myself.

I was born in and grew up in Wisconsin, in the northern part of the United States. My family lived by a lake, so in my childhood, I enjoyed swimming and boating in the summer and ice-skating in the winter. As a teenager, I dreamed of travelling abroad, but I didn't have a chance to do it until many years later. As an undergraduate and then graduate student, I made friends from many different countries, and I started to study foreign languages, including German and Japanese. Then in 1994, I had a chance to come to Japan! At the time, I expected to be here for only a short while - I had a two-year contract to teach English at Waseda University, which I expected to do while also finishing my PhD dissertation in linguistics at Northwestern University. But I quickly discovered that I loved living in Tokyo, and so after finishing my degree I decided to stay.

There were many things I enjoyed about Japan, and the Tokyo region in particular: the food, the flowers (unlike Wisconsin, there are flowers blooming year-round), the festivals, and the chance to travel within Japan and within Asia. I made many new friends, and I met the man who would be my husband: Masashi Yamamoto. Masashi grew up on a farm in Hokkaido, and we found that we had many things as “country kids” living in the big city, and from our childhood experiences in places with long, snowy winters.

The year 2000 was an exciting one for me. That year, I started a tenured position at Waseda University and a few months later, Masashi and I married. We held a wedding ceremony in Hawaii, right in the middle between the US and Japan, and a place that our families and friends were happy to go.

Since then, we have been living in Nakano Ward in a small house with our pet cats. Right now, we have four of them, stray cats that were rescued. We love our neighborhood, but we also enjoy travelling around Japan to see parks and gardens and to stay in onsens. We love the hot water baths, and also the wonderful food!

I first learned about CWAJ from my female students at Waseda, when some of them applied for the scholarship for graduate study abroad. Then a few years ago, I visited the CWAJ print show and discovered out that some of my foreign women friends in Tokyo were CWAJ members. I decided to join, and currently, I am focusing on the VVI activities. I love to teach English and to meet new people, so the classes the Japan Vocational Development Center for the Blind and Low Vision (JVDCB) have been very enjoyable. It was also quite interesting to see how the mock Eiken interviews for Tsukuba high school students and the English Conversation Gatherings were adapted to an online format in 2020. I'm looking forward to meeting VI friends both online and in person in the upcoming months.

(以下訳文)

こんにちは、VVI ニュースレターを読んでいただき、ありがとうございます!  
CWAJ / VVI 委員長の一人、Vicky Muehleisen (ヴィッキー ミューライゼン) で

す。自己紹介をさせていただきますね。

私はアメリカの北部、ウィスコンシン州で生まれ育ちました。私の家族は湖のそばに住んでいたため、子供の頃には夏は水泳やボート、冬はアイススケートを楽しんでいました。10代の頃、海外を旅することを夢見ていましたが、そのような機会は何年もの間ありませんでした。大学の学部生として、そして大学院生として、いろいろな国の人たちと友達になり、ドイツ語や日本語など外国語を勉強するようになりました。そして1994年、日本に来る機会がおとずれたのです！早稲田大学で2年間英語を教える契約があったので、ノースウェスタン大学の言語学の博士論文を完成させながら、その2年間だけ短期滞在する予定でした。でもすぐに、私は東京での生活がとても好きであることに気がつき、博士課程を終了した後、日本に残ることにしました。

日本、特に東京近郊でたくさんのお楽しみがありました。食べ物、花(ウィスコンシン州とは異なり、一年中花が咲いています)、祭り、日本国内やアジアを旅する機会など。私は多くの新しい友人が出来、将来夫となる男性 山本正志(やまもと まさし)と出会いました。正志は北海道の農場で育った人です。私達は都会に住む「田舎育ちの子供」として、そして冬の長い雪国での幼少期の経験など、たくさん共通点を持っていることがわかりました。

2000年は私にとってエキサイティングな年でした。その年、私は早稲田大学で終身雇用の職を得て、数ヶ月後、正志と結婚しました。アメリカと日本の中間地であり、家族や友人たちが喜んで来てくれる場所、ハワイで、結婚式を挙げました。

それ以来、私たちはペットの猫たちと一緒に中野区の小さな家に住んでいます。今は保護された4匹の迷い猫を飼っています。家の近所も大好きですが、日本各地を巡って公園や庭園を見たり、温泉に滞在することも楽しんでいます。温かいお風呂、そして素晴らしい食べ物が大好きです！

CWAJについては、早稲田の女子学生数名が、海外留学大学院女子奨学金に応募したことで初めて知りました。そして数年前にCWAJ現代版画展を訪れ、東京にいる外国人女友達の数名が、CWAJメンバーであったことを知ったのです。CWAJに入会することを決め、今はVVIの活動に注力しています。私は英語を教えること・新しい人達と出会うことが大好きですから、日本視覚障害者職能開発センター(JVDCB)でのクラスはとても楽しいです。また2020年、ECGや、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部の生徒さんたちを対象とした英検モックインタビューが、オンライン方式に変更されて行われたことは、とても興味深いことでした。近いうちに、オンラインそして直接VIフレンズの皆さんにお会いできることを、楽しみにしています。



## 5. CWAJ 奨学金のためのチャリティーコンサートについて

CWAJ は、この秋、ヴァイオリニスト川畠成道（かわばた なりみち）氏をお招きして、チャリティー コンサートを開く準備を進めております。メンバー一同、皆さまと楽しいひとときを過ごせることを願っております。

### 川畠成道 ヴァイオリンコンサート

日時： 2021 年 11 月 14 日（日曜日） 開演：14:00（開場：13:30）

会場： 自由学園、明日館（じゅうがくえん みょうにちかん）

（東京都豊島区西池袋 2-31-3 （JR 目白駅から徒歩

7 分）

チケット：5,000 円 （学生と VI friends は 3,000 円）

購入方法その他詳細は、コロナの状況を踏まえつつ検討を進め、決まり次第メールや CWAJ ウェブサイトでお知らせいたします。

## 6. 編集後記

今回もニュースレターを最後までお読みいただきありがとうございました。皆さんの日々の生活に、少しでも多くの楽しみをお届けできていれば嬉しく思います。次号は秋のお届け予定です。「〇〇のような記事が読みたい」、「英語の記事を増やしてほしい」など、何かリクエストがありましたらぜひ以下までご連絡下さい。Newsletter の感想も大歓迎です。

また、メールでのニュースレターの受け取りをご希望の方も、下記にご連絡下さい。

（連絡先）

VolunteersVI@cwaj.org

Newsletter Editor（編集担当）：安原理恵

Distributor（発送担当）：本村理子（もとむらみちこ）